



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	芒亭書屋談叢
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 84
Issue Date	1935-05-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77673
Type	article
File Information	A018_02_03all_Part21.pdf



特農の開墾



April 30, 1935

芒亭書屋談叢

「大日本農史」「大日本農政類編」「日本農功傳」「本朝農事參考書解題」等皆當時の農商務省農務局編纂の形にて公けにされたるものなれども、事實上は鷹洲織田完之翁の手に成れるものなり。此等は皆我が國の農業の歴史に少しく興味を持つ者の必讀の書と云ふ可きものなり。其他翁の手に成れるもの殆ど皆農事に關し、百三十八種五百四十一卷ありと云ふ。出版せるものみにて五十八種あり。

明治以後農學に志すもの算を知らず、農學に關する書亦眞に汗牛充棟の觀あり。然れども日本農業の過去の歷程に關し其蘊蓄翁の如きは極めて稀なり。蓋し明治以後の農學者は多く日本の古きに學ぶ事よりも西洋の新らしきに學ぶに急なりし爲にも依る可し。

頃來頻りに國粹を唱へ日本精神を叫ぶ者多し。誠に然かある可き事なり。然れども其謂ふところの日本精神と云ふもの概ね淺薄皮層の一面のみにして、日本精神の眞諦に及ばざる憾なしとせず。

眞に想ひを沈潜して日本精神の眞意義を識らんとするものは古へより國の本をなし營々其業に服し眞に日本を育成し來りし農民日本の心にも聴け。余は新緑窓に映ゆる諸君の机上に鷹洲翁の日本農民史に關するかづ／＼の書を薦むるものなり。

翁は天保十三年壬寅九月三河國額田郡福岡村に生る。明治維新には改新の大業に加はり、後仕官して農事の開發に貢獻するところ多し。然れども元より其自ら任ずるところは、農史の編纂の業に在りしが如し。大正十二年一月東京に歿し谷中天王寺に葬らる。行年八十二歳。

芒亭

代價から余は再び巻頭文を著す所を
なつた。題して其書を「農民の歴史」とする。